町村☘ 広報ざんまい

ブラジルにも送る 田浦町公民館報

編集者は〝町の新聞記者〟たいぐう

（芦北郡）

＜第2回＞

今年の四月一日、村から町になつた田浦町は例の甘夏みかんの産地、有明海に面した静かな町である。公民館活動の盛なところで、それにも増して目立つているのが公民館報の充実した編集発行ぶり。

そこで、今回は編集者の大石文夫さんに御登場願つて、館報のアウトラインや、編集上の苦心を色々とお聞きした。

この大石さんは現在町の教育委員会と公民館の主事を兼任されている二六才の好青年。八代中学・八代高校時代は学校新聞部長をやり、更に青年団では機関紙編集を一年半もやつたという、いわば編集屋のメシを食つたベテラン。

広報熱心の町長さん

公民館報は一体何時から発行する様になつたのですか？

もう館報発刊は町民の間に世論として長い間湧いていたのです。そこで三〇年の四月今の藤崎町長が村長に就任された際、その施策の一つとして機関紙の発行を大きくとりあげられ、その年の十月に創刊号を出し、毎月一回一、八〇〇部を発行して、今三十二号まで出たわけです。町長は公民館長を兼任していますので公民館報として出す様になつたんです。

町長が仲々広報に熱心ですからね。あの当時、館報を通じて村の人々の意見を村政に反映させる、又、村の人々もこれを通じて村政の事情をよく識つてもらう……こうしてほんとうに新しい村づくりの意慾がもりあがつてくるんだ、とまあこういう気持で始めたわけなんです。

ここは政争の激しいところだと聞いていたんですが、編集上特に気を配るという様な事はありませんか？

とにかく厳正中立ですね。一方的にかたよらず、常に町民の幸福と親和を第一に考えてやつています。何と云つても、館報は「町民の機関紙」ですからね。

取材に飛び廻る編集者

この館報は内容が非常に多彩で原稿もよく集つているようですが編集会議はどのようにしてやつていますか？

毎月上編旬に集委員会を開きますが、メンバーは、公民館、役場、婦人会、青年団、学校…それに町民の中から学識経験者、県の山下農業改良普及員（農事メモ担当）……こういつた顔ぶれです。委員会では集つている今月号の原稿を全員で検討、選定し、翌月号の編集方針をきめてしまいます。その際各委員の方々も原稿を持つて来る事にしていますので、良い記事が出来ますよ。又年三回特別研究会もひらいています。

しかしあれだけの原稿を集めるのは大変でしよう？写真も豊富にのせてあるし。

そうですね……やはり「原稿は足で書け」と云われるように、あらゆる団体の会合にはカメラを持つて出席し、記事と写真の取材をしたり、町の有識者のお宅に行つていろいろ話を聞いては記事にしたり、熊日やその他の新聞記者の案内かたがた、私も部落の取材をやつてくる…という様な現状です。やはりあちらこちら歩けば取材の材料は沢山ころがつていますからね。それで此頃ではいろんな会合がある時には、必ず私にも案内状がきますよ。ホンモノの新聞記者並に取扱われているのがくすぐつたい様な……だがそれだけ館報が重要視されているのかと思うと、ますます張合がありますね。

それから写真は出来るだけ自分で撮る様に努めていますが、不足分は役場の係と、町のアマチュア写真愛好会の皆さんの協力を頂いて大変助かつています。

☆梅雨前にこれだけは！

(イ) 食器ダナの掃除や乾物の整理を、風通しをよく考えて行います。

(ロ) 屋根、とい、ミゾの見廻りと修理。雨が降つてきてからではおそすぎます。

(ハ) ふとんカバーやカーテン等は洗つてさつぱりしたのにとりかえる。

(ニ) 衣類は今のうちに虫干しをし、寝具も陽に当てる。

☆農繁期の疲労

農繁期は仕事におわれて、特に疲労が激しくなります。それにひきかえて、日常の食事も簡単にすませがちですが、こんな時こそ、油物を食事毎に必ず取りいれる工夫や、保存食等に気をつかいたいものです。疲労を回復するためには十分に睡眠をとることも忘れずに。

☆蚊とハエをなくそう

蚊とハエがこれから私共を悩ます。蚊はちようど今頃幼虫のボーフラとなつて下水、池、空カンやこわれたカメなどの水の中で育つているから、今のうちに撲滅する。不潔な水たまりをなくして、つまつたミゾなどはよく水が流れるように掃除。床下や便所、廊下の隅などは薬剤を撒布する。ハエは、たい肥やゴミ箱の中を巣として飛び廻つています。家畜小屋、納屋は定期的によく掃除をし、台所からの野菜くずはピッタリとフタのしまるゴミ箱に捨てる。

☆外出後の注意

これからは汗が出て、おまけにホコリにまみれやすくなる。帰宅したら、手足をよく洗う。この外に、ウガイをすることも忘れずに。汗でしめつた下着をいつまでも着ていることも皮膚の衛生上悪い。

助役さんも郷土史を連載

役場から提出の記事もなかなかまとまつているし、為になるものが多いですね。

発刊前に必ず役場の各係を廻つて頼むわけです。どうしても忙しくて書けない場合は資料を貰つて記事にします。これはあとで係の人に一応目をとおして貰います。各係でも非常によく協力して頂いています。

特に役場の横田助役さんは今年の一月号から『田浦百話』と題して郷土史をずつと連載されている程の熱の入れ方ですし、平松町議会議長さんも投稿の常連（？）ですよ。

又、元村議会議長の中村さんもずつと「明鏡止水」欄の執筆者で、七月にはこれまでの分をまとめて単行本とし、五〇〇部発行することにしています。

こうして、館報が皆さんから盛り立てられ、親しまれてくるにつれて、各戸配布した残りをわけて呉れという希望がとても多くなりました。町外の知人や親戚に送つておられるんですね。編集者としてこれは嬉しい事ですよ。やりがいがありますね。

ブラジルや県外にも発送

配布はどのようにして？

一、八〇〇部のうち一、六五〇部は町内二〇地区に、各地区会長→各班長→各戸という方法で配つています。

残り一五〇部のうち二十二部はブラジルに行つて居られる町出身の方に送つていますが、とても喜ばれますよ。又町出身で県外に住んで居られる方からも申込みが沢山ありますのでこの方々にも送つています。こうして送つていると自然と手紙のやりとりまでやるようになりましたので、時々は県外者の声も掲載しています。

親しまれる「町民の館報」へ

処で、館報をずつと眺めてみますと、一般町民の方からの投稿が少い様ですが……

痛いところを突かれました。そのとおりです。今では町の人々が、こんな記事をのせて呉れ、こんなテーマはどうだろう、と色々注文を出される様になつてきましたし、道で会つた人から「今月号はまだですか」と請求される程ですが、投稿はたしかに少いのです。

そこで、今後は編集委員がつくる館報ではなく、町民全部でつくる親まれる館報にしなければと自己反省しているところです。特に婦人層の投稿を多くして、婦人も必ず読んで頂く様にとも考えています。又、編集技術をもつと研究したいんですが、他町村編集者の皆さんとの技術提携も必要じやないかと思います。広報課あたりで、ぜひそういう機会をつくつて頂きたいものですね。

お願い

★各市町村で発行しておられる広報紙は、県広報課へもぜひ毎号お送り下さい。又、各市町村間でも交換しあい、批判しあつて、お互いによりよい広報紙に育てゝゆきたいと思います。

★この「広報くまもと」の内容はすべて転載や抜粋自由です。適宜御利用下さい。

海の上を自動車でゆける

▶ それは **有明海自動車航送船** です

——長洲港から長崎県多比良港まで50分——

観光に……貸切バスのまゝで雲仙や長崎の日帰り旅行ができます。

物資輸送に……熊本・長崎間8時間かゝつていたのが僅か4時間で輸送できます。

詳しい事は、観光案内所やバス会社、長洲町の有明海航送船組合へお問合せ下さい。★